



高村 智 議員

質問1 緊急時の福祉票を「緊急医療情報ポトル」にしてはどうか

市長 福祉票や緊急通報システム整備を今後も進めてまいりたい

問 新型コロナウイルスによる生活様式の考え方が見直され、これからの高齢者対策についても多様な考え方で対応しなければなりません。

そこで以下の点で質問します。

(1) 社会福祉協議会で配っている「緊急時の福祉票」は、一人暮らしの高齢者には大変強いアイテムと考えられます。

せっかく良い物を配布しているのですから、いろいろな自治体で配布している「救急医療情報ポトル」にすることで、より活用しやすいものにしてはどうか。

市長の考えをお聞かせください。

(2) 後期高齢者を対象に新型コロナウイルス感染症のリスクを極力低減することを目的とした「高齢者外出機会安全確保対策事業」についてですが、高齢者には出掛けることで買い物先でのリスクに対する不安もあるため、宅配業者や買い物代行サービスなどにも活用できる幅の広い対策が急務であると考えますが、市長の考えをお聞かせください。

答(市長) (1) 救急医療情報ポトルについては、置き場となる冷蔵庫の整理整頓がされていない事例もあることから、現在、実施している小地域ネットワーク事業による緊急時の福祉票や緊急通報システム整備事業を今後も進めてまいりたい。

(2) ご指摘のとおり、持病がある高齢者の方の中には、買い物など移動先での新型コロナウイルスへの感染リスクに不安を持つている方もいると思われま。

「高齢者外出機会安全確保対策事業」では、宅配業者や買物代行サービス業者を登録事業者にすることは考えていますが、現在、市の生活支援コーディネーターが、配食サービスのある店、宅配弁当、移動販売の一覧をまとめていますので、今後、町内会や民生委員・児童委員等が高齢者宅を訪問する際に配布してま

質問2 スクールカウンセラーなど常駐してはどうか

教育長 有効的な活用を図り相談体制のさらなる充実を推進する

問 北斗市には、子どもたちが安心して登校できる環境について様々な対策がありますが、特に中学生の不登校に関しては相当数の子どもたちがおり、保護者としても頭を痛めているところです。

相談を受ける先生とは別に、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワ

ーカー、臨床心理士などの資格のある看護師を常駐させることで、第三者の視点で聞く相談相手を配置するなど、積極的な心と身体の支援策を取るべきと考えますが、教育長の考えをお聞かせください。

思います。

特に最近、総合体育館で子どもたちの靴の盗難による苦情が多数寄せられており、抜本的な対策が必要だと思えます。

もともとある下駄箱は玄関から見えないために現在は使用していないものの、今も玄関横にある下駄箱は開放している場所であるため、防衛策になっていないのが現状です。

答(教育長) 近年の不登校の要因や傾向が本人や家庭内だけでなく社会的な関心の高まりや変容についても大きな問題として捉えています。

不登校の児童生徒や保護者が第三者に相談できるよう、北海道教育委員会の事業を活用し、スクールカウンセラーを平成28年度から配置し、現在4名の方がそれぞれの担当校を定期的に巡回して、相談を行っています。

スクールソーシャルワーカーについては、平成23年度から配置し、現在1名の方が常駐してサポートしています。

答(教育長) 紛失事案等が年数件発生し、そのほとんどが総合体育館であることも承知しています。

スクールカウンセラーの常駐は考えていませんが、より有効的な活用を図り相談体制のさらなる充実や児童生徒の自尊心を高める教育を推進してまいりたい。また、SNSを活用した相談体制についても研究してまいりたい。

今後、施設利用者に対しては、注意喚起の掲示や貴重品も含め自己管理を徹底し、必要に応じて、鍵付きロッカーの利用を促すとともに、学校やスポーツ団体を通じて施設を利用する際には、必要最低限の所持品にとどめるなど、周知徹底を図ってまいりたい。

質問3 市内の体育施設で盗難等の被害があるが管理については

教育長 必要に応じ鍵付きロッカー利用を周知徹底してまいりたい

問 毎年、各体育館施設において盗難による被害があることはご存知のことだと

また、指定管理者と協議し、コロナ感染症対策を含めた利用上のルール・マナー等の周知や注意喚起を強化し、施設利用者の安心安全を第一に管理運営をしてまいりたい。